

第九部 わざわいの書

(原題：ヒゼキヤ王治世第 14 年の危機に瀕しての宣告)

イザヤ 28 章～35 章

□ 第九部のアウトライン

		わざわいだ
A) アリエルの苦難	28～29 章	28 : 1、29 : 1、29 : 15
B) エジプトとの同盟に対する警告	30～31 章	30 : 1、31 : 1
C) 正義の王による統治	32 章	
D) イスラエルの避難	33 章	33 : 1
E) 諸国民に対する神の怒り	34 章	
F) イスラエルの回復	35 章	

□ 「B) エジプトとの同盟に対する警告」のアウトライン (イザヤ 30～31 章)

1. わざわいだ、エジプトとの同盟を結ぶ者たち (30 : 1～5)
2. エジプトの助けは空しく、当てにならない (30 : 6～7)
3. 預言のメッセージに対するユダ王国の人々の無関心 (30 : 8～11)
4. その結果 (30 : 12～17)
5. イスラエルの将来の回復 (30 : 18～26)
6. アッシリアが主によって打たれる (30 : 27～33)
7. わざわいだ、助けを求めてエジプトに下る者たち (31 : 1～3)
8. イスラエルを救う神のプログラム (31 : 4～9)

□ 「C) 正義の王による統治」のアウトライン (イザヤ 32 章)

1. 一人の王が義によって治め、首長たちが公正によって支配する国 (32 : 1～8)
2. メシアの王国が建つ前に、困難な時期が来る (32 : 9～14)
3. メシアの王国が始まる直前に、聖霊が注がれる (32 : 15～20)

「B) エジプトとの同盟に対する警告」(イザヤ 30～31 章)

5. イスラエルの将来の回復 (30 : 18～26)

イスラエル民族を神の民として回復させる前に、大患難期を通らせるという預言

18 節 それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる。主が義の神であるからだ。幸いなことよ、主を待ち望むすべての者は。

- それゆえ・・・17 節までで指摘してきたイスラエル民族の罪ゆえに
- 恵みを与えようとして、あわれみを与えようと・・・イスラエル民族を神の民として回復させるという恵み・あわれみを与えようとして
- 待ち、立ち上がられる・・・恵み・あわれみを与える前に、大患難期という苦難の時を通らせる
- 主が義の神であるからだ・・・イスラエル民族に苦難の時を通らせる理由は、主が義の神であるから。苦難を通してイスラエルの民族的罪が取り除かれる。

19 節 ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことはない。あなたの叫ぶ声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くと、あなたに答えてくださる。

- 大患難期の末期、ついにイスラエル民族の回復の時が来る。イスラエルの指導者たちと民が、イエスをメシアとして認め、イエスに帰って来てくださいと声を合わせて祈り叫ぶ。その声に、主は答えてくださる。

20～22 節 たとえ主があなたがたに苦しみパンと虐げの水を与えても、あなたを教える方はもう隠れることはなく、あなたの目はあなたを教える方を見続ける。

あなたが右に行くにも左に行くにも、うしろから「これが道だ。これに歩め」ということばを、あなたの耳は聞く。

あなたは、銀をかぶせた刻んだ像と、金をかぶせた鋳物の像を汚れたものと見なし、不浄の物としてそれをまき散らし、これに「出て行け」と言う。

23～24 節 あなたが土地に蒔くあなたの種に 主は雨を降らせてくださる。

それで、その土地の産する食物は みずみずしく豊かである。

その日、あなたの家畜の群れは 広々とした牧場で草をはむ。

土地を耕す牛やろばは、シャベルや熊手でふり分けられた味の良いまぐさを食べる。

25 節 大いなる殺戮の日、やぐらの倒れる日に、高い山、そびえる丘の上すべてに、水の流れる運河ができる。

- 大いなる殺戮の日、やぐらの倒れる日・・・イスラエル民族の回復の時は、イスラエルを攻撃する反キリスト軍が壊滅する日でもある。反キリストに追従した諸国の要塞もまた破壊される。
- 高い山、そびえる丘の上すべてに、水の流れる運河ができる・・・イスラエルの地には、すべての山や丘から豊かな水が流れ出る。

26 節 主がその民の傷を包み、その打たれた傷を癒やされる日に、月の光は太陽の光のようになり、太陽の光は七倍になって、七日分の光のようになる。

- 太陽の光が今よりも七倍明るくなるが、人々に害はない。むしろ、老いも若きも、大患難期を通る中で受けた傷が癒され、それぞれの体から病気や障害が取り除かれる。これにより、人々は、このあと千年続くメシア王国を、皆が健康で元気に暮らし続けることができる。

C) 正義の王による統治 (イザヤ 32 章)

1. 一人の王が義によって治め、首長たちが公正によって支配する国 (32 : 1~8)

1 節 見よ。一人の王が義によって治め、首長たちは公正によって支配する。

- 一人の王・・・メシア (イザヤ 9 : 6~7、エレミヤ 23 : 5~6)
- 首長たち (君主たち)・・・メシアの下で世界支配を実行する立場の人たち

2~5 節 彼らはそれぞれ、風を避ける避け所、嵐を避ける隠れ場のようになり、砂漠にある水の流れ、乾ききった地にある、大きな岩の陰のようになる。

見る者の目は固く閉じることがなく、聞く者の耳は注意深く聞く。性急な者の心も知識を悟り、もつれた舌もはっきりと早口で語る。もはや、愚か者が高貴な人とは呼ばれず、ならず者が上流の人とは言われない。

- 彼ら・・・英語訳は「a man」、人々全般を指す。メシアの王国における世界の人々である。人々の行いは良くなる。どのように良くなるかという点、「避け所、隠れ場、水の流れ、岩の陰」と表現されているように、対人関係は互いに思いやりのある関係になる。
- 見る者の目、聞く者の耳・・・人々の行いが良くなる理由は、人々の霊的な目や耳が開かれて、霊的真理を受け入れるからである。そして、人々が正しい知識に基づき判断し、もつれた舌ではなく、はっきりと早口で語る＝円滑な意思伝達ができる、ので、誤解や争いが少なくなる。
- 愚か者、ならず者・・・霊的な目や耳が開かれておらず、そのために罪の性質に従って行動する不信者たち。こういう人が社会的に重要な地位につくことはない。人々は一人ひとりが正しく評価される。高貴な人、上流の人とは、信者であり、正当に評価されてその地位に就いた人々である。

6~7 節 なぜなら、愚か者は愚かなことを語って、心で不法を企み、不敬虔なことを行って、主に向かって迷いごとを語るからだ。飢えている者を飢えさせて、渴いている者に飲み物を与えない。

ならず者、そのやり方は悪質だ。彼は悪事を企み、貧しい者が正しいことを申し立てても、偽りを語って、苦しむ者を滅ぼす。

- メシアの王国にも「愚か者」や「ならず者」は存在する。彼らは不信者であり、100 歳で死ぬ。

8 節 しかし、高貴な人は高貴なことを計画し、高貴なことに堅く立つ。

2. メシアの王国が建つ前に、困難な時期が来る（32：9～14）

9～10 節 「**安逸を食う女たち**よ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。うぬぼれている女たちよ。**一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ない**からだ。

- 安逸を食う女たち・・・エルサレムに住んで贅沢な暮らしをしている女たち
- 一年と少しの日がたつと・・・アッシリア軍が南王国ユダを攻撃する
- あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ない・・・都エルサレムでの贅沢な暮らしを支えている農地やぶどう畑がアッシリア軍により略奪され、破壊される。

11～14 節 安逸を食う女たちよ、震えよ。うぬぼれている女たちよ、わななけ。着物を脱いで裸になり、腰に粗布をまとい。胸を打って嘆け。美しい畑、実り豊かなぶどうの木のために。茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、**いつまでも**荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ。」

- この預言はアッシリア軍の攻撃に関するものではない。都エルサレムがこのように荒廃することは、アッシリア軍の攻撃では起きなかった。
- この預言は、大患難期において起きることである。
- いつまでも・・・ヘブル語のオラム、時間が無限に続くという意味ではなく、定められた期間を途切れることなく満了することである。大患難期は全体で7年、イスラエルの苦難の時はその7年の中でも、とくに後半の3年半である。
- イスラエルの苦難の時は、イスラエルに民族的悔い改め、そして民族的救いをもたらす。それが次の15節で、イスラエル民族に神の霊、聖霊が注がれるという出来事につながる。

3. メシアの王国が始まる前に、聖霊が注がれる（32：15～20）

15 節 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。

- いと高き所から私たちに霊が注がれ・・・イスラエルの民族的救いは、神の霊、聖霊が人々の上に注がれることによって起きる。
- 荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされる・・・イスラエルが民族的に救われた結果は、約束の地にも現れ、豊かな産物をもたらすようになる。
- イスラエルが民族的救いを受けた結果として、次の 16 節から 20 節で 4 つのことが預言される。

16 節 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。

- 第一は、公正と義がイスラエルの地を支配する。

17～18 節 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穏と安心をもたらすとき、私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。

- 第二は、平和
- 私の民・・・イザヤにとって「私の民」、イスラエル民族のこと

19 節 あの森は雹が降って倒れ、あの町は全く卑しめられる。

- 第三は、イスラエルを攻撃した敵が倒れ、荒廃すること。あの森とは林立した反キリスト軍、あの町とはバビロン。

20 節 ああ、幸いなことよ。すべての水のほとりに種を蒔き、牛とろばを放し飼いするあなたがたは。

- 第四は、物質的な祝福。すべての水のほとりとは、イスラエルの地はどこでも豊かな水に恵まれるということ。種を蒔けば、作物は順調に生育し、そして莫大な収穫をもたらす。そのため、家畜を放し飼いにして自由に畑の産物を食べさせても、収穫に何の影響もないほどである。